



# Be an ACE!

大志・貢献・活力

県立直江津中等教育学校

H26学校だより No.19

平成26年8月29日発行

## 全校集会における校長講話

校長 武藤 正美

この夏、数ヶ月前はエルニーニョが発生して冷夏になると言われ、その後いつもの暑い夏になると予報が修正され、実際この時期になると、いつもより早めの秋雨前線と各地を襲った台風や集中豪雨、広島の実害はたいへんな様相を呈しています。一日も早い復旧が望まれます。50年に一度とか100年に一度というフレーズを毎年のように聞いている気がします。

私はこの夏、大学の研究室仲間と会津駒ヶ岳に登ってきました。頂上付近では、ほぼ快晴で眺望も素晴らしく、高山植物の群落に目を奪われましたが、下山途中の午後2時過ぎから天候が急変、雷を伴った激しい雨で、登りに快適だった登山道は、一転し、洪水の川の状況、命からがら降りてきました。大水は怖いものです。去年は矢代川の堤防決壊が9月でした。これから何が起きるか予測が付きません。万一を考えておくことが大切だと思います。

一方、「直江津」が燃えた夏でもありました。最近の野球です。新潟県・北信越代表の日本文理高校と直江津中学校の野球のがんばりも大きなことだったと思います。中学でも高校でも新潟県がベスト4、3位になった。これはすごいことだと思います。そして、日本文理高校の主戦、飯塚投手と鎌倉捕手バッテリーは直江津中学出身ですから、私たちと同じ『直江津』つながりで、思い入れも大きかったです。大きな感動をもらいました。

この夏、私にとっては平和についても考える時期でした。政府の集団的自衛権に関する考え方の変更をはじめ、私たち一人ひとりが真剣に考えなければいけないことが、現実の社会では起こっています。当事者意識を持って、社会の動きに注目しなければならないでしょう。

去年は代表を派遣できませんでしたが、2年ぶりに、上越市主催の広島平和記念式典に参加しました。折に触れて反戦・不戦の誓いを新たにすることが大切だと思っています。戦争は悲劇です。人権を無視する最大の行為でしょう。第二次世界大戦での、ドイツのユダヤ人に対する政策などその最たるもの。アウシュビッツなどの強制収容所に入れられた精神科医を知りました。オーストリアのヴィクトール・エミール・フランクルで『強制収容所におけるある心理学者の体験』という本を著しています。邦題は『夜と霧』です。この題はヒトラーが出した特別命令“夜陰に乗じて霧に紛れて秘密裏に、ユダヤ一家をまるごと捕縛して収容所に拘禁せよ”からとったもので、恐ろしさの象徴です。あらゆる自由を奪われ、命をないがしろにする行為が常態化する中で、この出来事を風化させてはいけない、経験者としてぜひ書き残しておかねばならないとの使命感に駆られてでしょう。終戦後わずか9日で書き上げたと言われていました。

ともすれば、私たちはどうしたら幸せになれるかとか、どうすれば自己実現できるかを求めがちですが、彼は言う。私中心の人生観ではなく、人間は「人生から問われている者」、あなたのことを必要としている誰か、何か必ずこの世界にはあるから、その誰かや何かを目を向けよう。人間が人生の意味は何かと問うに先立って、人生の方が人間に問いを発してきているから、人間は本当は生きる意味を問い求める必要なんかないのだ。その発想はとても重要なことかなと思いました。私の人生が私に課しているミッションは何か、今一度考えてみたいと思っています。

さて、学校はいよいよ一学期まとめの時期となります。これからは学習に最適の季節となります。いろいろな学校行事も目白押しです。それぞれの目標をしっかりと確かめて、充実した学校生活を送りましょう。

全校集会における講話内容を抜粋しました。

## お知らせ ~本校図書館への献本について~

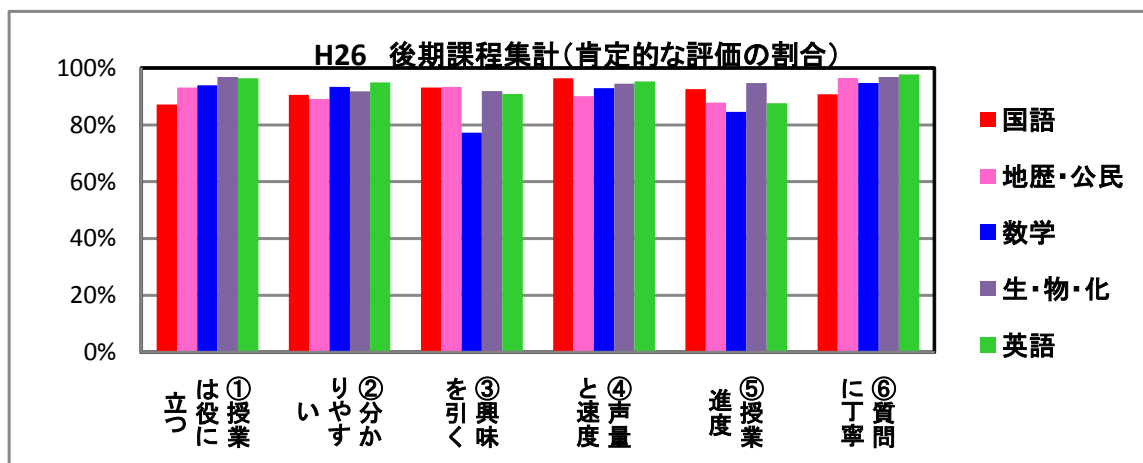
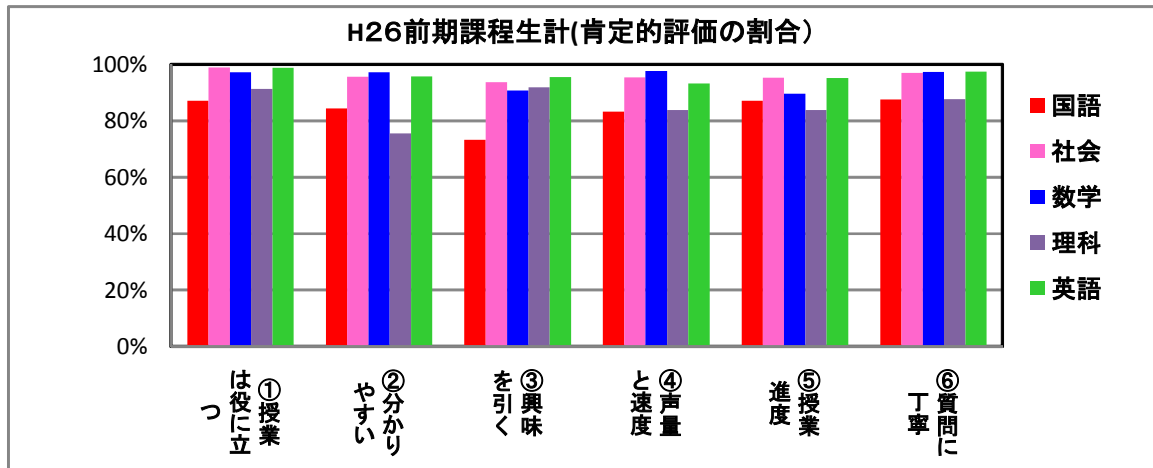
直江津高校卒業生である大橋常道様（前北里大学教授、現日本大学と北里大学非常勤講師）より、以下の著書の献本をいただきましたので、図書館にて閲覧ください。

「マスターしておきたい数学の基礎」「初学者にやさしい統計学」 他5冊

## 「分かる喜び」「楽しい授業」充実した授業を目指して～授業評価の結果

直中等の本分は学習です。学力向上には、授業の質を高めることが重要です。いい授業とは教師と生徒が共に創り上げるものです。いくら教師が熱意をもって授業に臨んでも、生徒の意識とのずれがあればいい授業にはなりません。そこで、昨年度同様7月末に生徒による各授業の評価を実施しました。教師にとって、生徒から通知表をもらう気分です。この授業評価を参考に、教員一人一人が日々の教材研究や互いに授業を批評し合うことを通して、授業力を磨いていきます。

- ・授業に対する肯定的な評価の割合（4段階評価の4と3の合計）が、80%を超え概ね良好な結果であった。
- ・すべての質問項目の肯定的な評価の割合の平均値が、昨年度に比べ、前期課程は89%から91%、後期課程は87%から93%に上昇した。
- ・教科や質問項目により多少差が認められた。今後、教科の特性を考慮しながら、「分かりやすい」「興味を引く」授業を目指して、授業改善を図っていきます。



### 前期課程 期末考査迫る！ 毎日の積み重ねが大きな力となります！

考査日	時間	1年	2年	3年
4日(木)	1限	保体	保体	保体
	2限前半	家庭(25分)	技術(25分)	自習
	2限後半	技術(25分)	家庭(25分)	技術(25分)
5日(金)	1限	国語	社会	理科
	2限	英語	数学	国語
	3限	理科	国語	数学
8日(月)	1限	数学	英語	社会
	2限	社会	理科	英語

前期課程の1学期末考査を左記の日程で実施します。

生活面や学習面において、早めに夏季休業中のリズムから、日常生活のリズムに戻していくことが重要です。

※4日の3限以降は普通授業

※5日は給食後12:35に下校

※8日の3限以降は普通授業

※期末考査前の部活動停止

8月28日(木)～

9月7日(日)